

地域発展のための高等教育機関の整備、充実の考え方と今後の展開について

1. 今後の取組方針（平成 23 年度総会承認事項）

これからの大学の取組は、帯広畜産大学を核に、地域特性・優位性を活かし、まちづくりと連動させながら、段階的に高等教育機関の整備を進めます。

2. 段階的な高等教育整備、充実の考え方（平成 23 年度総会承認、平成 24 年度第 1 回企画総務部会にて一部修正）

① 前期・中期展開

帯広畜産大学等の既存高等教育機関を中心に、様々な教育・研究を通じた知の拠点形成し、「フードバレーとまち」の取り組みとの相乗効果、さらにはフード特区の活用などを通じ、地域で活躍する人づくりをはじめ、国内外の大学や企業、人材などが集まり、「食」や「農業」など、この地域の特性や優位性を活かした様々な取り組みが展開される高等教育周辺環境づくりをすすめ、後期展開へとつなげていくこととします。

② 後期の展開

中期までの取り組みの成果を土台に、その段階で、地域が必要とする高等教育機関の具体的な形を整理(具体的分野、高等教育機関の形態—帯広畜産大学の学部・学科・大学院、新しい大学・学部・学科・大学院など)し、取り組みを推進します。

全体概念図

